

- 問1 群馬県太田市などの北関東の都市を中心に見られる、高速道路のネットワークを活用した工業の立地について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2021年 奈良県公立入試 類似)
1. 製品の輸送や部品の調達をトラックで行うのに適した、高速道路のインターチェンジ周辺に工場が集まっている。
 2. 製品の鮮度を保つために、消費地である大都市の中に小規模な工場が点在し、地下鉄を利用して製品を運んでいる。
 3. 電力の確保を最優先とするため、大規模な水力発電所が建設されている山間部の急流沿いに工場が密集している。
 4. 原料を海外からの輸入に頼るため、大型船が接岸できる埋立地や臨海部に広大な工場用地を確保している。
- 問2 関東地方の各都県を比較した統計において、埼玉県は「昼夜間人口比率」が全国でも極めて低い水準にあります。この指標の説明および埼玉県の状況として正しいものはどれですか。 (2016年 静岡県公立入試 類似)
1. 面積1平方キロメートルあたりの昼間人口のことで、埼玉県は東京都よりも高い数値である。
 2. 夜間人口100人に対する昼間人口の割合のことで、埼玉県では100を大きく下回っている。
 3. 1年間の人口流入数と流出数の差のことで、埼玉県では流入数が流出数を上回っている。
 4. 昼間人口100人に対する夜間人口の割合のことで、埼玉県では100を大きく上回っている。
- 問3 地域調査の資料として、逗子駅から逗子海水浴場までのルートを2万5千分の1地形図で確認したところ、駅と海岸線までの図上の長さが4cmでした。このとき、実際の実測（水平距離）は何メートルになりますか。計算の結果として正しいものを選択しなさい。 (2025年 東京都公立入試 類似)
1. 500メートル
 2. 2,500メートル
 3. 100メートル
 4. 1,000メートル
- 問4 近年、日本の大都市圏で見られる「都心回帰現象」が起きている背景とその仕組みについて、適切な説明はどれか選びなさい。 (2024年 岐阜県公立入試 類似)
1. 都市部での高齢化が深刻化したため、介護施設を確保しやすい郊外から、医療機関の多い都心へ高齢者が一斉に移り住んだ。
 2. 地方公共団体が都心居住者に補助金を支給し、郊外から都市中心部への強制的な移住を進めた。
 3. 郊外の交通網が整備されたことで、都心に住まなくても短時間で通勤できるようになったため、都心の居住ニーズが高まった。
 4. 都市中心部の地価が下落し、再開発によって居住環境が整備されたことで、利便性を重視する世帯の人口流入が進んだ。
- 問5 関東地方に位置するある県は、工業出荷額が約13兆円に達し、製造業の中でも特に印刷業の規模が大きいという特徴があります。また、農業面でも全国有数の産出額を誇り、米の産出額が東京都や群馬県を上回るこの県の名として正しいものはどれですか。 (2025年 埼玉県公立入試 類似)
1. 茨城県
 2. 神奈川県
 3. 千葉県
 4. 埼玉県
- 問6 千葉県の農業において、大消費地である東京圏に隣接している利点を活かし、野菜などの産出額を押し上げている農業の形態を何と呼びますか。 (2016年 山形県公立入試 類似)
1. 近郊農業
 2. 抑制栽培
 3. 大規模農業
 4. 促成栽培
- 問7 東京都の工業統計において、印刷業や情報通信機械などの出荷額が占める割合が、他の工業地域と比較して高くなっている理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
1. 内陸部の豊かな水資源を活用して、古くから綿織物や絹織物などの繊維工業が発展してきたため
 2. 原材料の輸入や製品の輸出に便利な大型港湾があるため、鉄鋼や化学などの基礎素材産業が中心となっているため
 3. 東京湾沿岸の広大な埋立地を利用して、大規模な製鉄所や石油コンビナートが整備されているため
 4. 出版社や放送局が数多く立地し、情報の加工やメディアに関連する需要が非常に大きいため
- 問8 関東平野の台地部分を広く覆っている、富士山や箱根山などの火山活動によって噴出した物質が長い年月をかけて堆積してできた赤土の層を何といいますか。 (2025年 栃木県公立入試 類似)
1. マサ土
 2. シラス台地
 3. 関東ローム層
 4. 泥炭地
- 問9 世界文化遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」を構成する「田島弥平旧宅」の説明として、最も適切なものはどれか。 (2025年 北海道公立入試 類似)
1. 積雪に耐えるための独特な屋根構造を持ち、地域の共同体で維持されてきた集落
 2. 官営の模範工場として、西洋の機械を導入し生糸の大量生産を可能にした施設
 3. 通風をよくする工夫を凝らした建物で、近代的な養蚕技術の開発・普及に貢献した施設
 4. 銀の採掘から搬出までを行うために、山間部に築かれた鉱山と関連する施設
- 問10 日本の工業地域のうち、群馬県、栃木県、茨城県の内陸部を中心に発展した地域について説明します。この地域は、かつて京浜工業地帯などに集中していた工場が、用地不足や地価の高騰を避けて移転してきたことで形成されました。製品の搬出において、船舶ではなくトラックによる陸上輸送を主軸としているこの地域の名称を答えなさい。 (2022年 山口県公立入試 類似)
1. 京浜工業地帯
 2. 北関東工業地域
 3. 瀬戸内工業地域
 4. 中京工業地帯
- 問11 北海道、秋田県、群馬県、富山県の4道県における農業産出額の内訳を比較した統計において、コメの産出額が全体の1割に満たない一方で、畜産と野菜の産出額を合わせると全体の約8割を占めるという特徴を持つ県はどこですか。 (2017年 神奈川県公立入試 類似)
1. 北海道
 2. 富山県
 3. 群馬県
 4. 秋田県
- 問12 茨城県の産業構造について、野菜の産出額が米や果実を大きく上回り、かつ製造品出荷額等が非常に高い数値を示している理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 高知県公立入試 類似)
1. 温暖な気候を利用して果実の輸出を促進し、内陸部にハイテク産業を集積させているため
 2. リアス海岸での養殖業を基盤とし、重化学工業を縮小して観光業へ転換したため
 3. 大消費地に近い利点を生かした農業と、臨海部などの大規模な工業開発が組み合わさっているため
 4. 広大な冷涼な土地を利用した大規模な稲作と、伝統的な工芸品の生産に特化しているため
- 問13 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県の4都県における人口統計を確認すると、東京都のみが「昼間人口が夜間人口を上回る」という特徴を持っています。これに対し、他の3県では夜間にその場所に住んでいる人口の方が多くなっています。東京都でこのような現象が起きる主な理由として、周辺の県からどのような目的で人々が流入していると考えられますか。最も適切な組み合わせを選びなさい。 (2024年 三重県公立入試 類似)
1. 観光と買い物
 2. 帰省と宿泊
 3. 農業と漁業
 4. 通勤と通学
- 問14 関東地方の内陸北部に位置し、キャベツの収穫量が全国で第2位となっている県はどこですか。この県ではレタスやほうれん草の生産も盛んに行われています。 (2018年 兵庫県公立入試 類似)
1. 千葉県
 2. 群馬県
 3. 長野県
 4. 茨城県

答え合わせ・解説

問1	答え 1 製品の輸送や部品の調達をトラックで行うのに適した、高速道路のインターチェンジ周辺に工場が集まっている。	内陸型工業の最大の特徴は、道路網の発達を背景に、交通の利便性が高い場所に立地することです。特に、部品の調達と製品の出荷が頻繁に行われる自動車工業などでは、高速道路のインターチェンジ付近に工場を建てることで、物流コストを抑えつつスムーズな生産体制を築いています。これに対し、臨海部に立地するのは鉄鋼業や石油化学工業などの重化学工業であり、内陸型工業とは立地条件が異なります。
問2	答え 2 夜間人口100人に対する昼間人口の割合のことで、埼玉県では100を大きく下回っている。	昼夜間人口比率は「(昼間人口÷夜間人口)×100」で算出されます。埼玉県は、夜間人口が約719万人に対し、昼間人口が約637万人と大きく下回っており、比率は90人を割り込んでいます。これは、日中に県外へ通勤・通学する人口が、県内へ入ってくる人口よりも圧倒的に多いことを示しています。
問3	答え 4 1,000メートル	2万5千分の1地形図において、実際の距離は図上の長さを25,000倍することで求められます。4cm×25,000=100,000cmとなり、これをメートルに換算すると1,000m(1km)となります。地形図の読解においては、縮尺を利用した距離の算出が重要です。
問4	答え 4 都市中心部の地価が下落し、再開発によって居住環境が整備されたことで、利便性を重視する世帯の人口流入が進んだ。	都市回帰現象の主な要因は、バブル経済崩壊後の地価下落によって都市部に住宅を確保しやすくなったことや、職住近接(職場と自宅が近いこと)を求める共働き世帯の増加です。これに合わせ、鉄道駅周辺や工場跡地での再開発が進み、高層マンションが多数供給されたことが、郊外からの人口流入を後押ししました。
問5	答え 3 千葉県	千葉県は京葉工業地域を擁しており、工業出荷額が極めて高い一方で、近郊農業や稲作も盛んな県です。特に印刷業については、大消費地である東京都に隣接していることから、製本や印刷の工場が多く立地しています。農業面では、都市に近い利点を生かした野菜生産だけでなく、県北部を中心に稲作も広く行われています。
問6	答え 1 近郊農業	千葉県は、人口が集中する東京などの大都市に近いという地理的条件を活かし、新鮮さが求められる野菜などを生産して出荷する近郊農業が発展しています。この仕組みにより、輸送コストを抑えながら高い需要に応えることができるため、全国でも有数の農業産出額を維持しています。
問7	答え 4 出版社や放送局が数多く立地し、情報の加工やメディアに関連する需要が非常に大きいため	東京都の工業は、鉄鋼や石油・石炭製品といった重化学工業を中心とする地域とは異なり、出版物や広告などの印刷業、パソコンや通信機器などの情報通信機械といった、情報の流通や消費に関連する分野の割合が高いことが大きな特徴です。これは、政治や経済の中心地として、情報の発信源となる施設が集中しているという都市機能と密接に関係しています。
問8	答え 3 関東ローム層	関東平野の大部分を覆うこの層は、主に富士山や箱根山などの火山から噴出した火山灰が風に運ばれ、堆積したものです。火山灰に含まれる鉄分などの鉱物が酸化しているため、独特の赤みを帯びています。九州南部に広がる火山灰層であるシラス台地や、花こう岩が風化してできた中国地方に多いマサ土との違いを区別しましょう。
問9	答え 3 通風をよくする工夫を凝らした建物で、近代的な養蚕技術の開発・普及に貢献した施設	田島弥平はカイコを健康に育てるための換気技術を確立し、そのための建築様式を広めました。この養蚕の技術革新が、後の富岡製糸場での大規模な製糸活動を支える重要な要素となりました。
問10	答え 2 北関東工業地域	北関東工業地域は、東京近郊の過密化を避ける形で内陸部に発展した代表的な「内陸型工業」の地域です。群馬・栃木・茨城の3県にまたがり、高速道路を利用した首都圏へのアクセスの良さを活かして、機械や食品などの工場が数多く立地しています。
問11	答え 3 群馬県	群馬県は関東地方に位置し、大消費地である東京圏に近い利点を活かした農業が行われています。統計上、東北地方の秋田県や北陸地方の富山県ではコメの生産割合が非常に高く、北海道では大規模な畑作や畜産が行われますが、群馬県は特に野菜と畜産の産出額が突出して高い割合を占めるのが大きな特徴です。
問12	答え 3 大消費地に近い利点を生かした農業と、臨海部などの大規模な工業開発が組み合わさっているため	茨城県は首都圏の食料供給を支える農業県としての側面と、鹿島臨海工業地帯などを中心とした工業県としての側面を併せ持っています。特に野菜の産出額が多いのは近郊農業の恩恵であり、製造品出荷額が高いのは、鉄鋼や石油化学、機械工業などの大規模な工場が集まっていることによるものです。
問13	答え 4 通勤と通学	東京都には約81万もの事業所や179校に及ぶ大学などの教育機関が高度に集中しています。そのため、周辺の埼玉県、千葉県、神奈川県から仕事や学びのために多くの人々が移動してきます。このように、ある地域に住んでいる「夜間人口(常住人口)」に対し、他の地域から流入する人々を加えた「昼間人口」が上回る現象は、大都市の中心部に顕著に見られる特徴です。
問14	答え 2 群馬県	群馬県は関東地方の北部に位置する内陸県で、特にキャベツの生産において全国有数のシェアを誇ります。茨城県や千葉県も農業が盛んですが、これらは沿岸部に位置し、ピーマン(茨城)やネギ(千葉)などの生産が特に有名であるという違いがあります。